

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	身体拘束についての知識もあり認識はしているが、利用者の危険回避の意識が優先になり、玄関ドアの施錠を解除できていない。利用者が外出したがる背景についての見極めができていない。	自由に入出入りができるように、玄関の開放時間を増やしていく。	まずは、朝の散歩の時間に、30分間玄関を開放する。昼間、夕方などに開放時間を増やして行く。利用者がなぜ外に出たいのか、思いを聞き受け止め一緒に外へ出る。利用者の思いを、職員間で共有する。	6ヶ月
2	23	日常生活の中で本人の意向を聞くようにしているが、自分の希望が言えない利用者が増えており、思いの把握が出来ていない。	利用者それぞれの歴史・趣味・感情などを把握し、自分史を作成する。	利用者本人に関する質問事項を職員で決める。記入用紙を家族に渡して、家族から見た利用者の生活や、利用者本人から聞いた若い頃の話などを記入してもらう。また、利用者本人に人生を振り返ってもらい、職員が聞き取りをする。	3ヶ月
3	7・8	虐待や権利擁護、身体拘束について学ぶ必要があると分かっているが、研修に参加できていない。	定期的に職員が研修に参加し、学んできたことを全員の職員に伝え共有する。学んだことを、ケアに活かして行く。	グループホーム職員は、積極的に研修に参加する意志があることを施設長に伝え、研修に参加して行く。管理者は、研修案内等を幅広くチェックしておき、良い研修であると思われるものには、参加させてもらえるよう施設長に進言する。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。